
市川町景気動向調査

2022年1-3月期

市川町商工会

目 次

I. 調査要領.....	- 1 -
1. 調査目的.....	- 1 -
2. 全国および兵庫県の経済動向調査.....	- 1 -
3. 管内調査.....	- 1 -
II. 全国および兵庫県の経済動向.....	- 2 -
III. 管内調査結果.....	- 3 -
1. 売上高の状況.....	- 3 -
2. 採算（経常利益）の状況.....	- 5 -
3. 資金繰りの状況.....	- 7 -
4. 人材の状況.....	- 10 -
5. 業況の状況.....	- 14 -
6. 設備投資の実施状況.....	- 16 -
7. 最も優先すべき経営上の課題.....	- 18 -

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

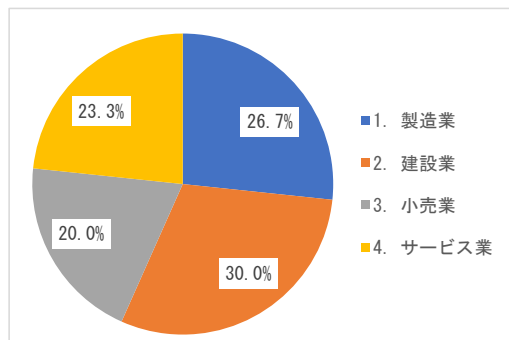
3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…30 企業

〈内訳〉

製造業	8 社
建設業	9 社
小売業	6 社
サービス業	7 社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2022年1月から3月の令和3年度第4四半期を対象とした。

※指標について

本報告書のD I とは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 全国および兵庫県の経済動向

兵庫県の先行景気指数が下がっており、今後の景気減退が懸念される傾向となっている。非製造業の景況が悪化していることや、倒産件数が前年より増加していることも懸念材料である。一方、住宅着工件数が前年度比で伸びており、関連業界では良い傾向になったといえる。

景気総合指数

兵庫県の先行指数と遅行指数(R4.2)は、前月を下回った。一致指数は前月を上回った。

	指数名	R3.12	R4.1	R4.2
兵庫県	先行	101.0	103.6	96.7
	一致	81.4	85.3	84.9
	遅行	91.6	94.3	94.9
全国	先行	102.9	101.3	100.1
	一致	96.9	96.3	96.8
	遅行	94.9	94.6	95.1

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化状況が続いているが、製造業ではマイナス幅が縮小した一方、非製造業は前期より悪化した。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（％）

	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3
全産業	▲19.5	▲17.1	▲20.6
製造業	▲12.7	▲23.0	▲7.0
非製造業	▲20.2	▲16.9	▲25.4

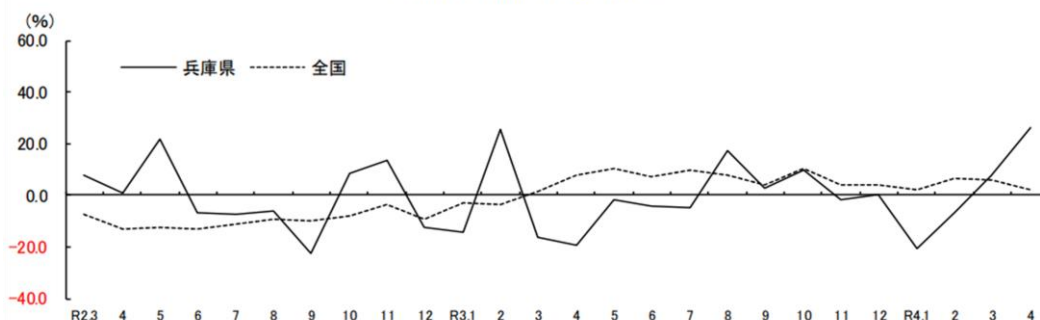
出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数は、R4.1は前年同月より大幅に低かったものの、R4.3は前年を上回った。

	R4.1	R4.2	R4.3
戸数	1,743	2,320	2,581
前年度比(%)	▲20.8	▲6.6	7.5

新設住宅着工戸数増減率



出所：国土交通省

有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R4.3）は1.32倍、兵庫県では0.96倍となった。新規求人数は前年より増加している。

	R4.3		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.32	0.96	1.22
新規求人数	4,108	30,664	855,033
前年度比(%)	11.1	3.1	11.0

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

倒産件数

兵庫県の企業倒産件数は、1月は前年度より減少したものの3月は増加した。全国では、2・3月に前年度より増加している。

	R4.1	R4.2	R4.3
兵庫県	件数	24	19
	前年度比(%)	▲17.2	0.0
全国	件数	452	459
	前年度比(%)	▲4.6	2.9

出所：(株)東京商工リサーチ

Ⅲ. 管内調査結果

1. 売上高の状況

(1) 売上高D I

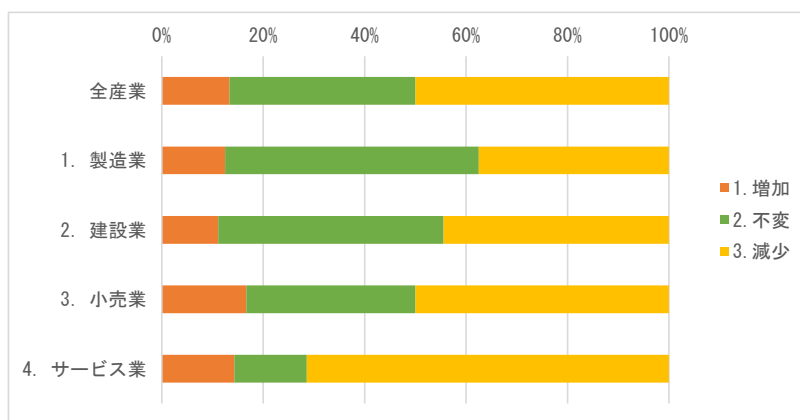
今期の全産業売上高D Iは▲36.7で、前期よりも悪化した。兵庫県と比較すると18.8ポイント、全国と比較すると2.5ポイント低い。

業種別では、サービス業の値が最も低かった。製造業は、前期までの1年間はプラスで推移していたものの今期はマイナスとなった。前期より改善したのは小売業のみだった。

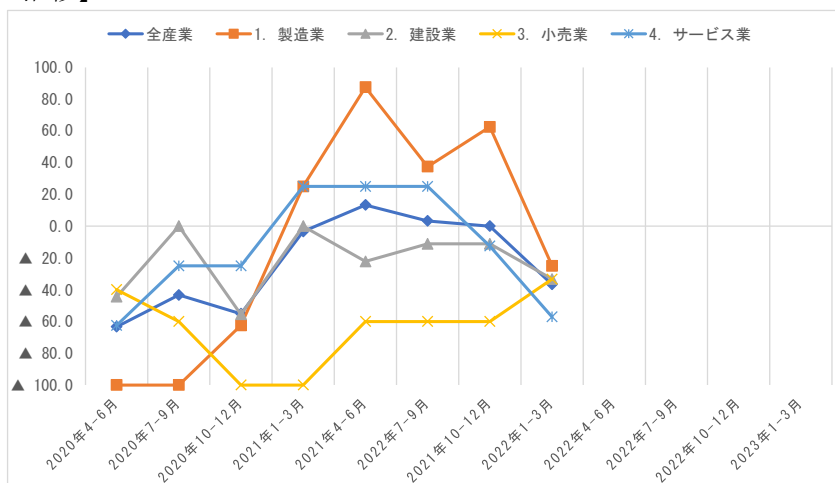
図表1. 業種別の売上高D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	11	15	30	13.3	36.7	50.0	▲ 36.7	▲ 17.9	▲ 34.2
1. 製造業	1	4	3	8	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 2.3	▲ 15.5
2. 建設業	1	4	4	9	11.1	44.4	44.4	▲ 33.3	▲ 14.8	▲ 22.6
3. 小売業	1	2	3	6	16.7	33.3	50.0	▲ 33.3	▲ 21.8	▲ 38.8
4. サービス業	1	1	5	7	14.3	14.3	71.4	▲ 57.1	▲ 26.3	▲ 46.0



【2020年～のD I推移】



(2) 売上が増加、または減少した理由

売上が増減したと回答した事業所 19 所のうち、63.2%が主な理由を「顧客数の増減」とした。次に、「顧客あたりの取引数の増減」と回答した事業所が 31.6%だった。

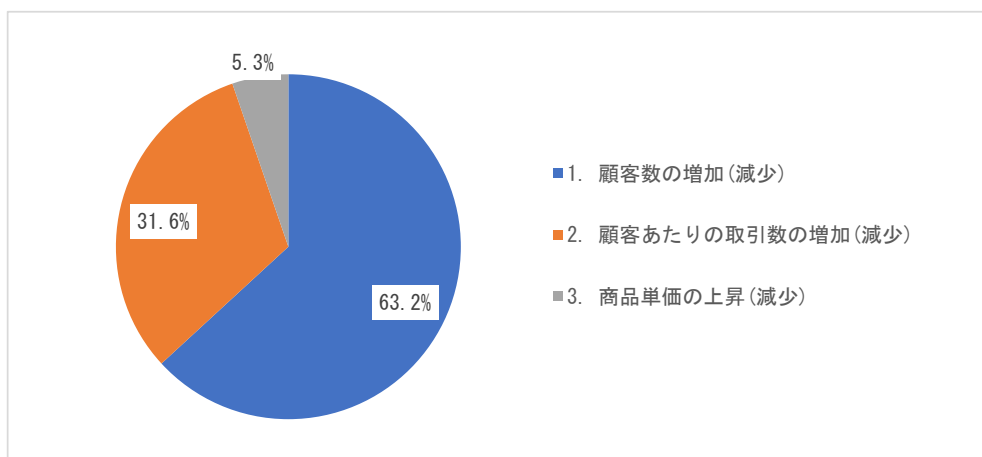
なお、売上が減少した事業所が 15 所で、増加理由は「顧客数の減少」が 3分の2と多く、「顧客あたりの取引数の増加」が 3分の1であった。顧客数の回復が課題となっていると言える。

売上が増加した事業所は 4 所で、増加理由は「顧客数の増加」が 2 所、「顧客あたりの取引数の減少」と「商品単価の減少」がそれぞれ 1 所だった。

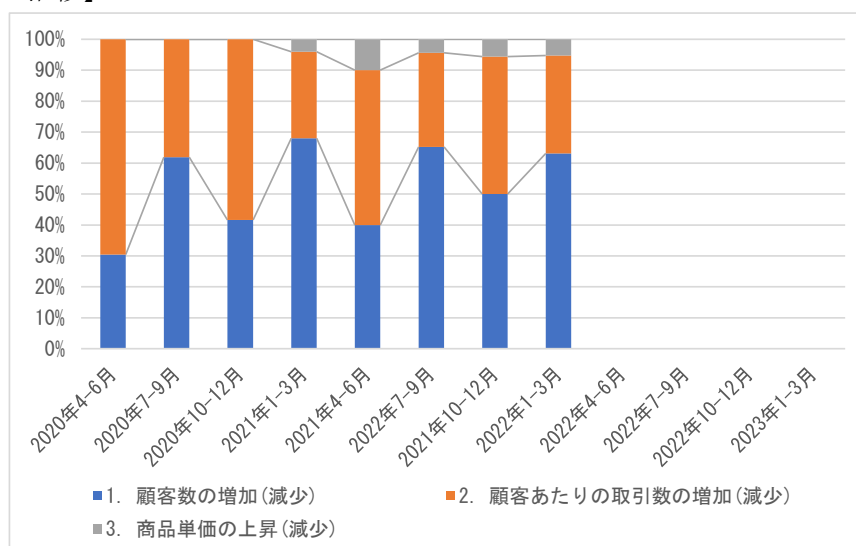
2020 年～の推移をみると、2020 年は顧客あたりの取引数の要因が比較的大きかったが、最近では顧客数の要因が比較的大きくなり、商品単価の要因も少しずつ出てきている。

図表 2. 売上高増減の理由

【今期調査結果】



【2020 年～の推移】



2. 採算（経常利益）の状況

(1) 採算D I

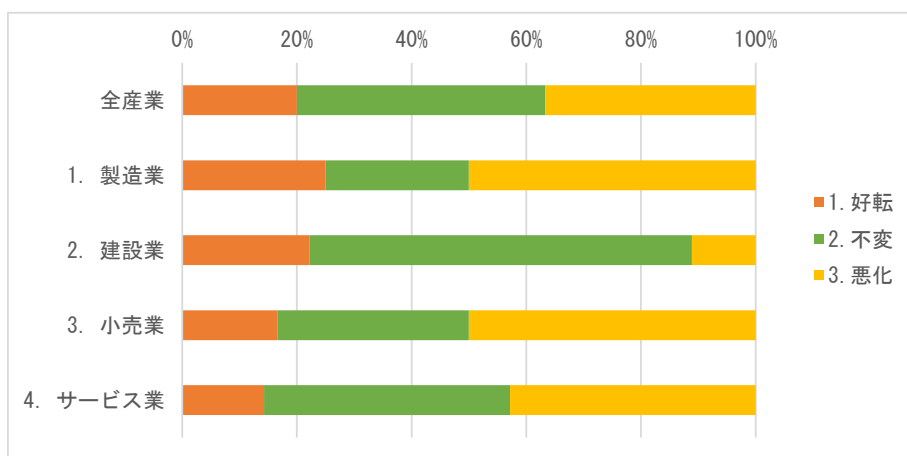
今期の全産業採算D Iは▲16.7で、兵庫県の▲32.1，全国の▲43.2と比較してマイナス幅は小さい。業種別では、製造業と小売業で兵庫県より悪い値となっている。

推移をみると、建設業と小売業は半年前から回復傾向にある。製造業は、前期までの1年間はプラス値だったものの、今期は悪化してマイナス値に転じた。

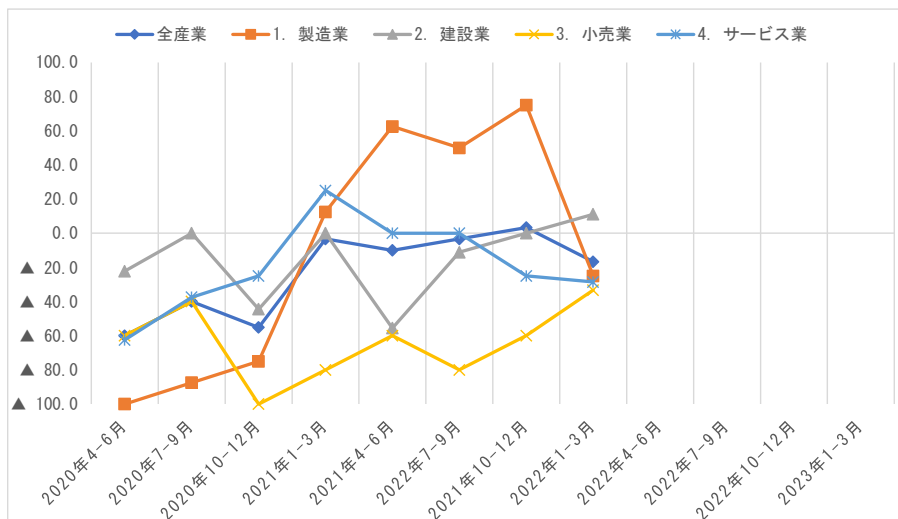
図表3 業種別の採算D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	6	13	11	30	20.0	43.3	36.7	▲ 16.7	▲ 32.1	▲ 43.2
1. 製造業	2	2	4	8	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	▲ 11.1	▲ 30.5
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 44.4	▲ 33.5
3. 小売業	1	2	3	6	16.7	33.3	50.0	▲ 33.3	▲ 28.3	▲ 49.0
4. サービス業	1	3	3	7	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6	▲ 43.1	▲ 49.8



【2020年～のD I推移】

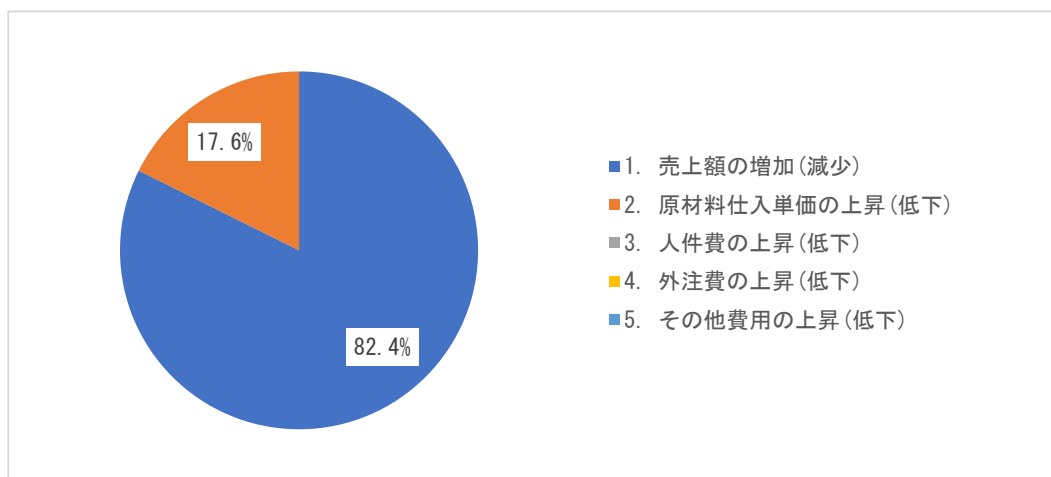


(2) 採算が好転、または悪化した理由

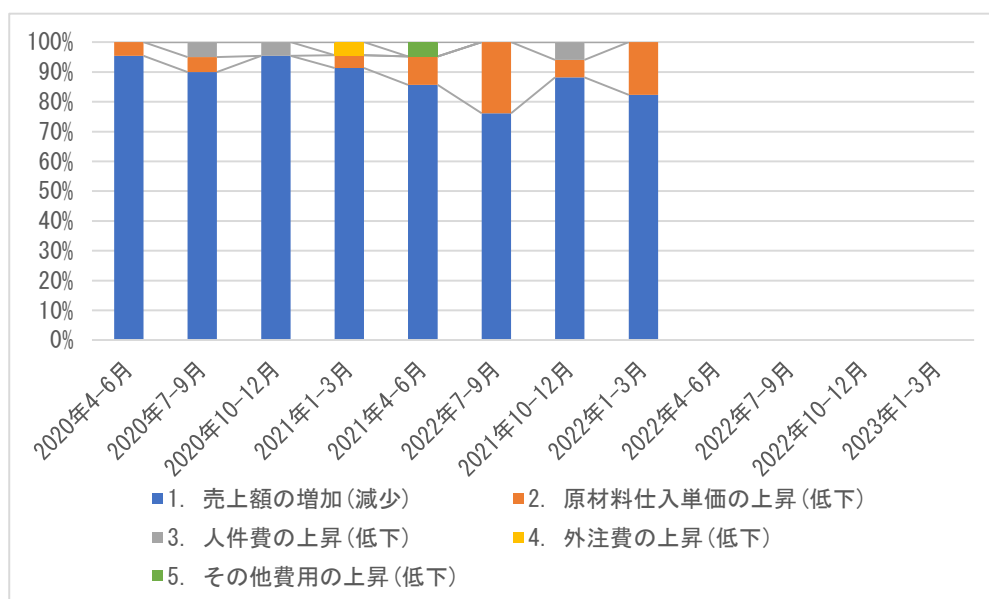
採算が好転、または悪化したと回答した事業所 17 所のうち、「売上高の増減(82.4%)」とした事業所が 14 所あった。その他は「原材料仕入単価の上昇(低下)」が 3 所であった。前期より、「原材料仕入単価の上昇(低下)」が増えている。

採算が好転した事業所は 6 所あり、全ての事業所が「売上額の増加」を理由として挙げていた。

図表 4. 採算好転悪化の理由



【2020年～の推移】



3. 資金繰りの状況

(1) 資金繰りDI

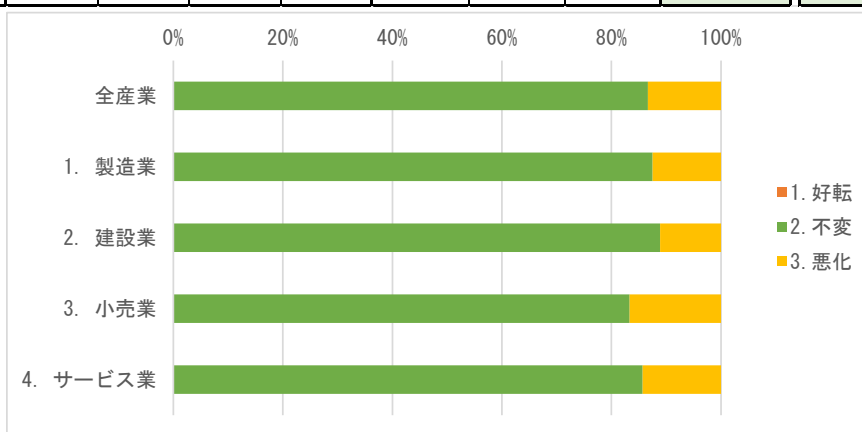
今期の全産業資金繰りDIは▲13.3で、兵庫県の▲18.2、全国の▲25.7と比較してマイナス幅が小さかった。

業種別に推移を見ると、前期は製造業と建設業はプラス値だったが、今期はマイナス値に転じた。小売業とサービス業は、前期に引き続き今期もマイナス値ではあるものの、前期より良化した。

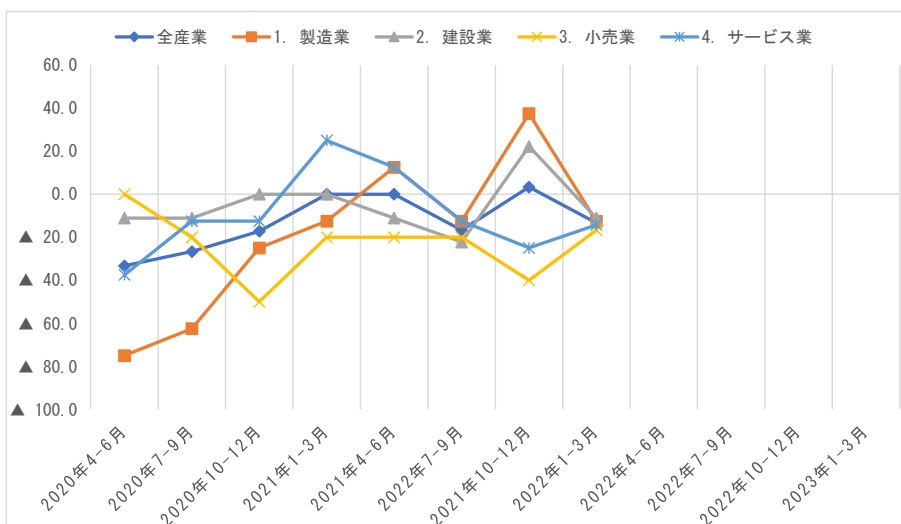
図表5. 業種別の資金繰りDI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	0	26	4	30	0.0	86.7	13.3	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 25.7
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 15.6	▲ 18.8
2. 建設業	0	8	1	9	0.0	88.9	11.1	▲ 11.1	▲ 7.7	▲ 12.3
3. 小売業	0	5	1	6	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	▲ 15.3	▲ 29.6
4. サービス業	0	6	1	7	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	▲ 25.7	▲ 32.2



【2020年～のDI推移】



(2) 取引先からの資金回収

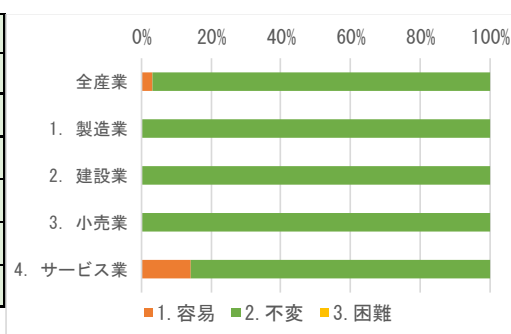
今期の全産業資金回収DIは3.3で、前期より下がったものの、資金回収が「困難」とした事業所はなかった。

業種別に推移をみると、サービス業で前期よりやや良化しており、小売業では変化がなかった。製造業と建設業では、前期より悪化している。

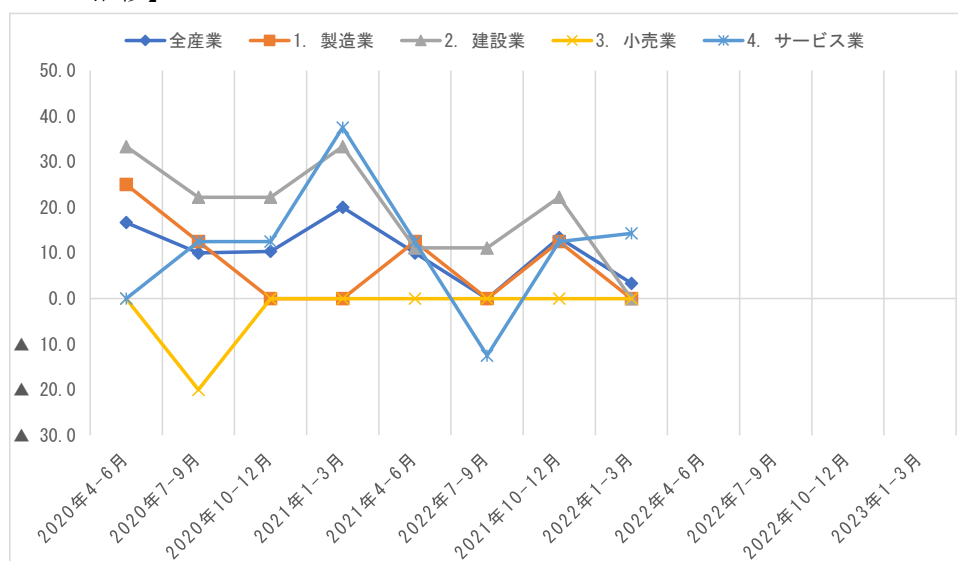
図表6. 業種別の資金回収DIの状況

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	1	29	0	30	3.3	96.7	0.0	3.3
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0
3. 小売業	0	6	0	6	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	6	0	7	14.3	85.7	0.0	14.3



【2020年～のDI推移】



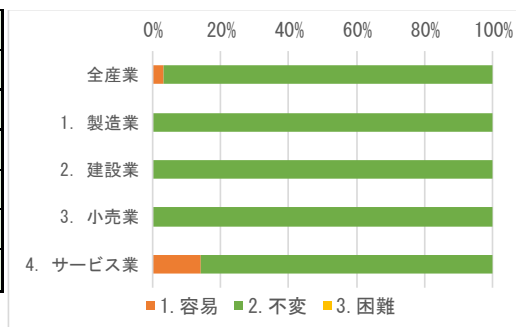
(3) 借入の容易さ

今期の全産業借入の容易さDIは3.3で、前回よりやや悪化した。業種別では、サービス業が最も高い14.3で、ほかの業種は0.0であった。前期に比べ、建設業のDIが下がっているのが目立つ。

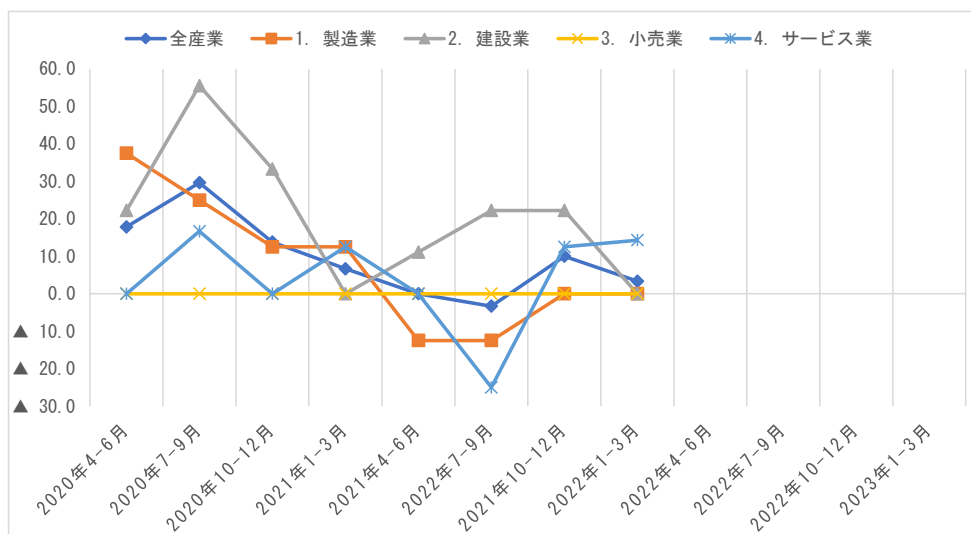
図表7. 業種別の借入DIの状況

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	1	29	0	30	3.3	96.7	0.0	3.3
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0
3. 小売業	0	6	0	6	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	6	0	7	14.3	85.7	0.0	14.3



【2020年～のDI推移】



4. 人材の状況

(1) 人材D I

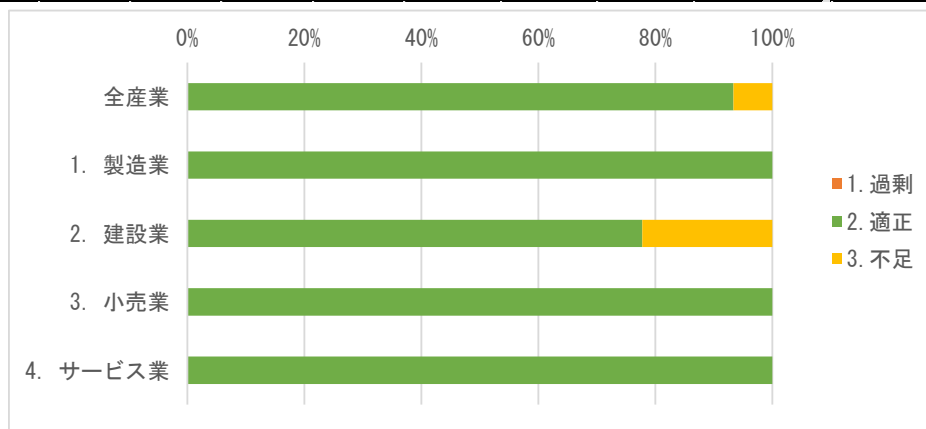
今期の全産業人材D Iは▲6.7で、兵庫県の▲15.8と比較しマイナス幅は小さい。業種別では、建設業では人材不足であるものの、他の3業種では「適性」としている。

前期からの推移をみると、マイナス幅が大きかった製造業が0.0に回復している。建設業および小売業とサービス業は、D Iがほぼ変化していない。

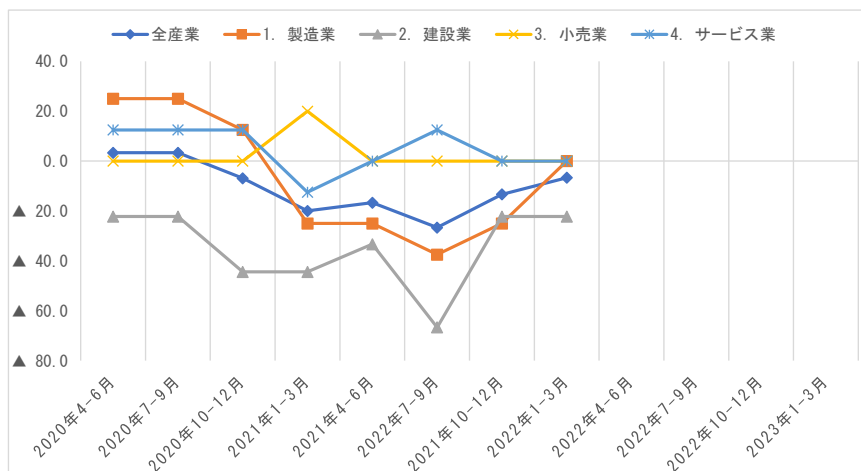
図表8. 業種別人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	0	28	2	30	0.0	93.3	6.7	▲ 6.7	▲ 15.8	—
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 6.8	▲ 17.6
2. 建設業	0	7	2	9	0.0	77.8	22.2	▲ 22.2	▲ 36.0	▲ 30.8
3. 小売業	0	6	0	6	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 11.9	▲ 9.1
4. サービス業	0	7	0	7	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 16.7	▲ 10.1



【2020年～のD I推移】

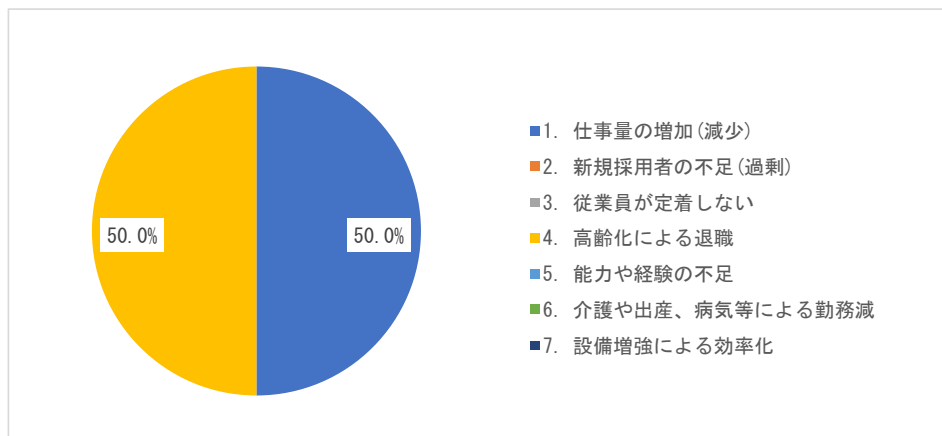


(2) 人材が過剰又は不足の理由

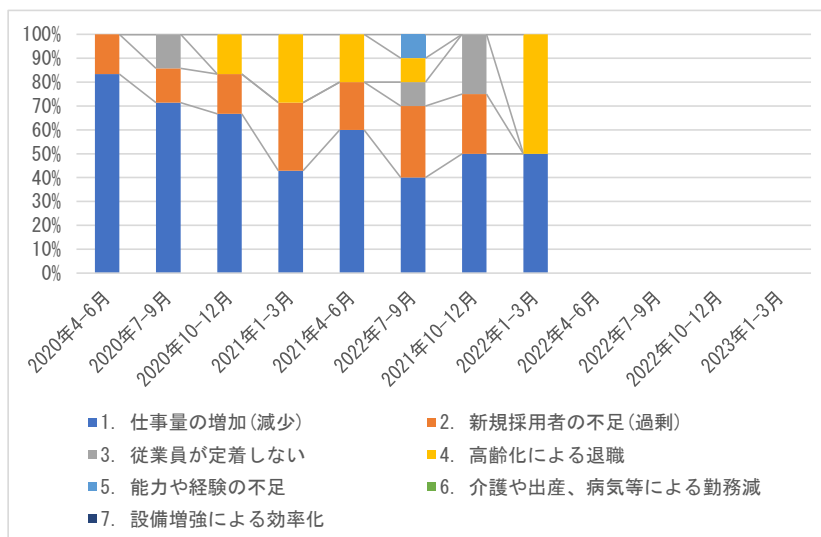
人材に過不足があると回答した事業所は2所で、いずれも「不足」と回答した。理由は、「仕事量の増加」と「高齢化による退職」であった。

前期まで理由に挙げられていた「新規採用者の不足（過剰）」は、今期はなくなった。

図表9. 人材過不足の理由



【2020年～の推移】



(3) 従業員数（含む臨時・パート）

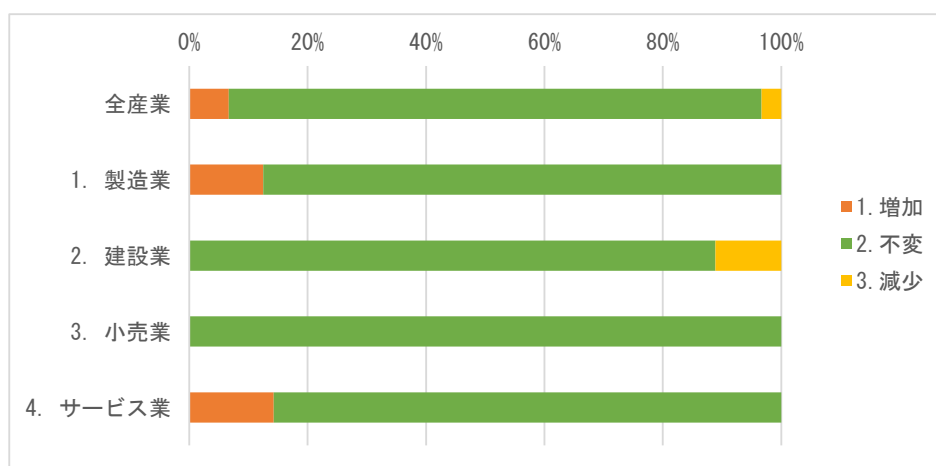
今期の従業員数D Iは3.3で、兵庫県の▲5.1と比較して8.4ポイント高く、従業員は増加傾向にある。

業種別に推移をみると、製造業と小売業は横ばいであるものの、今期は建設業とサービス業でD I値が上がった。特にサービス業は、従業員数の減少傾向が解消され増加傾向に転じた。

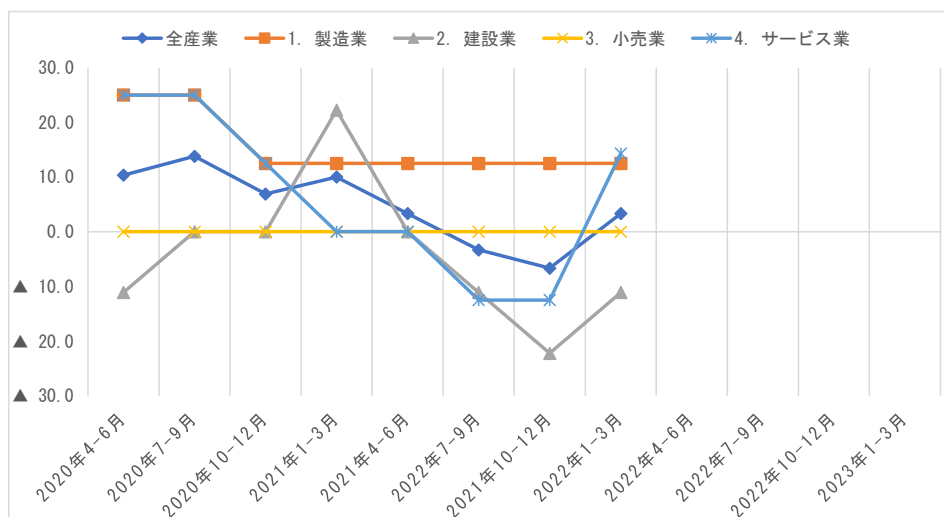
図表10. 業種別の従業員数D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	1	30	6.7	90.0	3.3	3.3	▲ 5.1	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 2.3	▲ 6.5
2. 建設業	0	8	1	9	0.0	88.9	11.1	▲ 11.1	0.0	▲ 3.5
3. 小売業	0	6	0	6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	▲ 3.8
4. サービス業	1	6	0	7	14.3	85.7	0.0	14.3	▲ 12.2	▲ 8.6



【2020年～のD I推移】



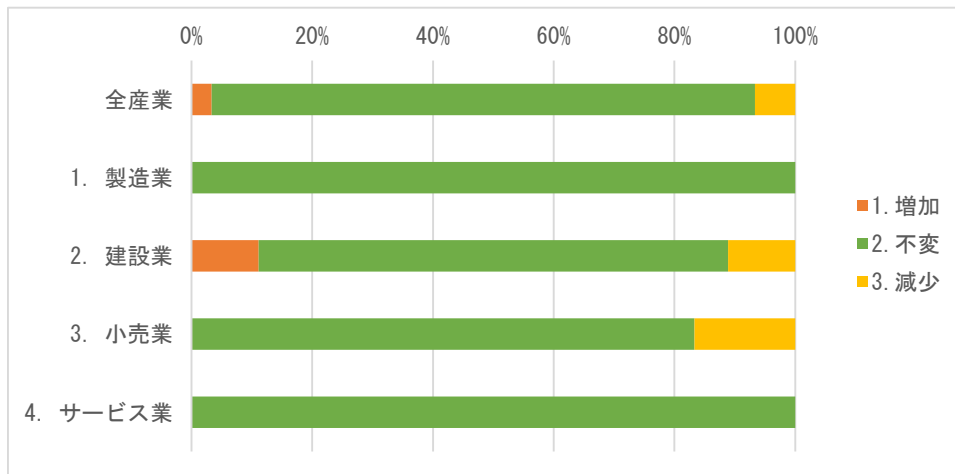
(4) 外部人材

今期の外部人材D Iは▲3.3で、兵庫県の▲4.7と比較してマイナス幅が小さい。
 前期からの推移をみると、建設業でD I値は下がったが、製造業では上がった。小売業とサービス業は、横ばいだった。

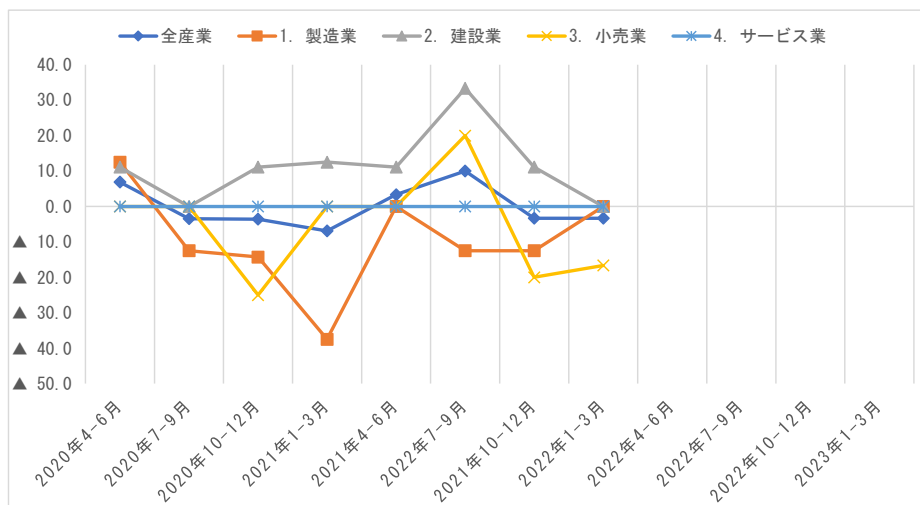
図表 1 1. 業種別の外部人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	1	27	2	30	3.3	90.0	6.7	▲ 3.3	▲ 4.7	—
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	▲ 1.8
2. 建設業	1	7	1	9	11.1	77.8	11.1	0.0	▲ 9.1	▲ 4.2
3. 小売業	0	5	1	6	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	▲ 3.7	▲ 4.2
4. サービス業	0	7	0	7	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 6.1	▲ 5.3



【2020年～のD I推移】



5. 業況の状況

(1) 業況D I

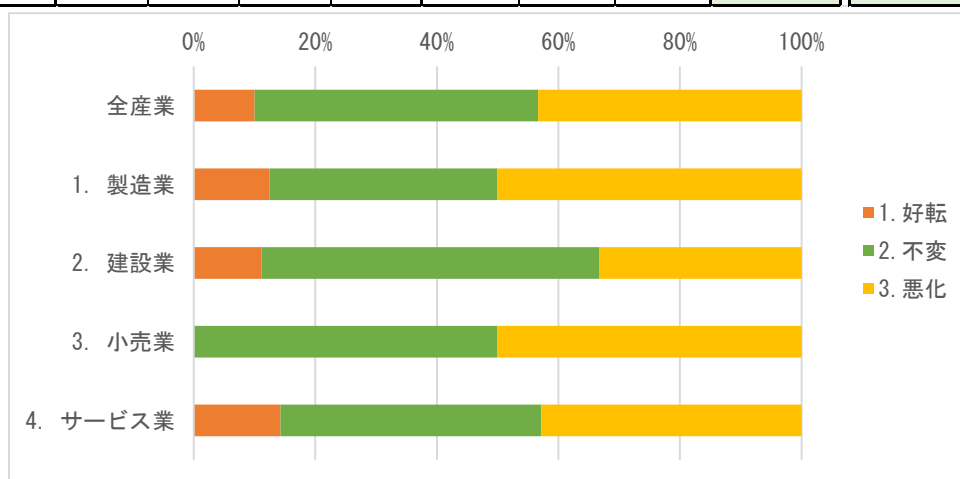
今期の全産業業況D Iは▲33.3で、兵庫県の▲24.9と比較し8.4ポイント低く、業況は悪化傾向にある。

前期からの推移をみると、小売業ではD I値が上がったもののまだマイナス値である。その他の業種ではD I値が下がっている。特に製造業では大幅に業況が悪化した。

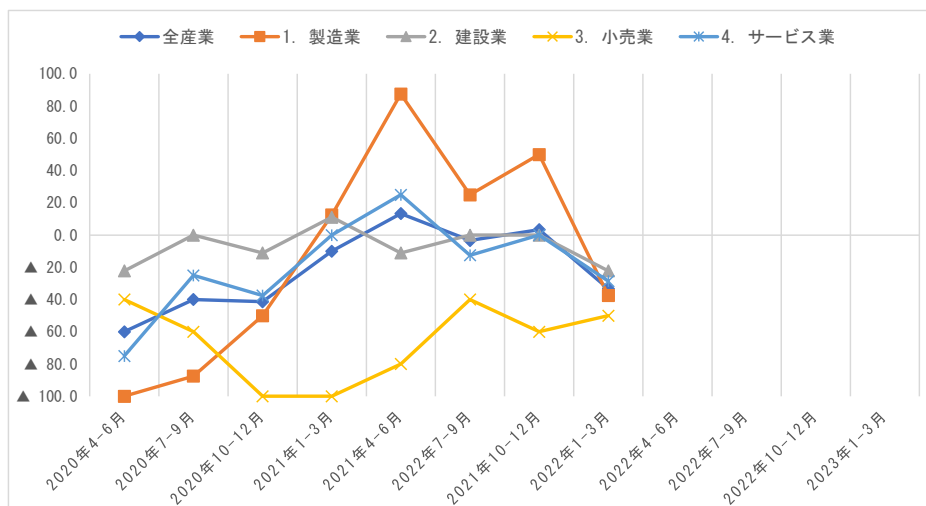
図表12. 業種別の業況D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	14	13	30	10.0	46.7	43.3	▲ 33.3	▲ 24.9	—
1. 製造業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲ 37.5	▲ 2.3	▲ 22.8
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 18.5	▲ 22.6
3. 小売業	0	3	3	6	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 37.7	▲ 45.9
4. サービス業	1	3	3	7	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6	▲ 33.4	▲ 46.5



【2020年～のD I推移】



(2) 業況判断の背景 (自由回答)

コロナの影響がまだ続いているとする事業者が3社あり、影響が長引いていることが伺える。

これ以外では、仕入価格や固定費の上昇、生活費の上昇による消費者の節約志向といった、物価高の影響を受けているとする回答が3社あった。また、海外取引先の部品入手が困難になっているとの回答があった。

コロナ禍に加えウクライナ問題など、世界的な外部要因が管内の中小企業に影響を与えている状況が伺える。

6. 設備投資の実施状況

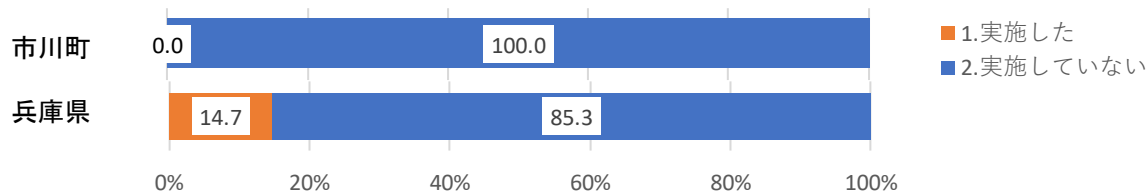
(1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所はなかった。
 設備投資を実施した事業所は減少傾向であり、設備投資は概ね一巡したと見られる。

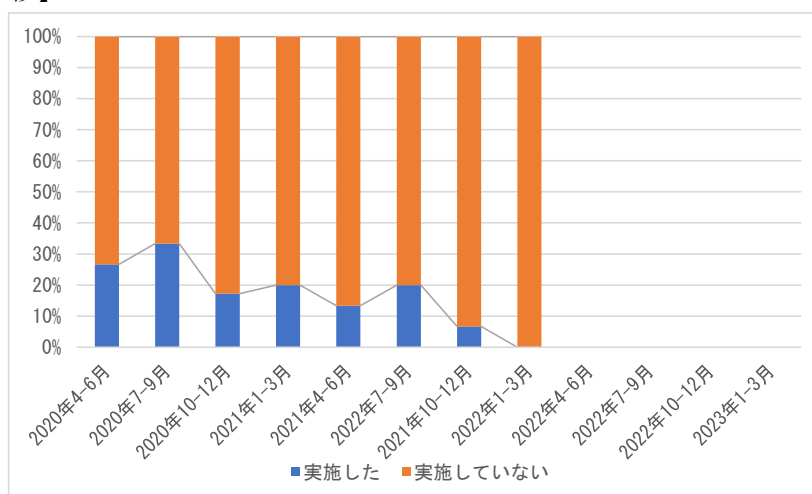
図表 1 3. 今期の設備投資実施状況

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	0	30	30	0.0	100.0	14.7	85.3	—	—
1. 製造業	0	8	8	0.0	100.0	13.3	86.7	14.1	85.9
2. 建設業	0	9	9	0.0	100.0	11.5	88.5	16.2	83.8
3. 小売業	0	6	6	0.0	100.0	10.9	89.1	9.7	90.3
4. サービス業	0	7	7	0.0	100.0	9.7	90.3	13.1	86.9



【2020年～の推移】



(2) 来期の設備投資

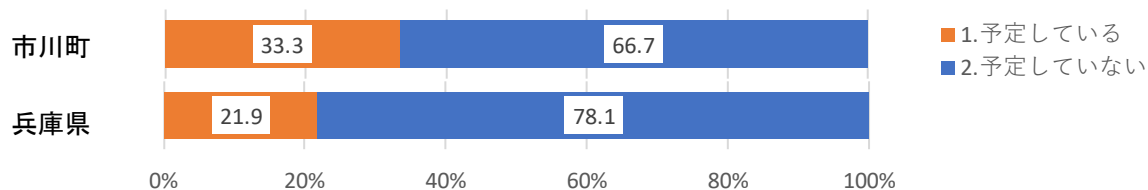
来期に設備投資を予定している事業所は 33.3%で、兵庫県と比較して 11.2 ポイント高い。建設業で投資を予定している事業所が多かった。

前回と比較すると、設備投資を予定している事業所はやや増加している。

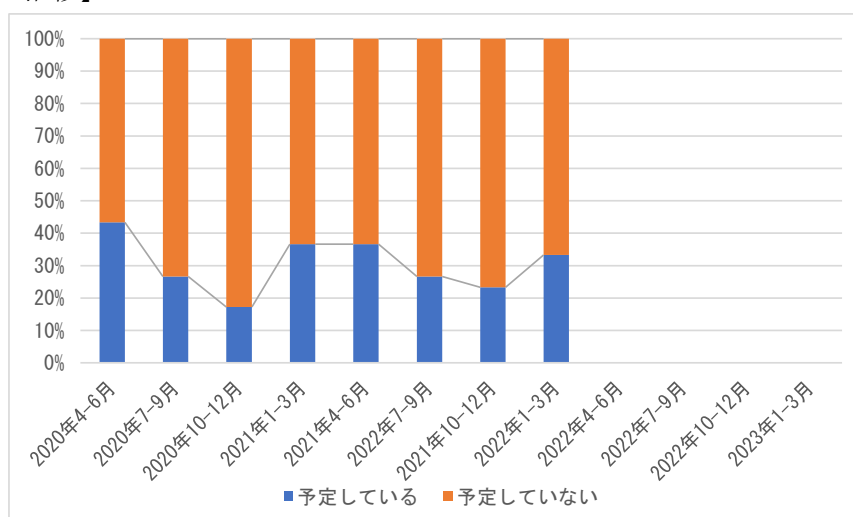
図表 1 4. 来期の設備投資計画

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	10	20	30	33.3	66.7	21.9	78.1	—	—
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	13.3	86.7	16.9	83.1
2. 建設業	4	5	9	44.4	55.6	23.1	76.9	17.4	82.6
3. 小売業	1	5	6	16.7	83.3	24.4	75.6	11.1	88.9
4. サービス業	2	5	7	28.6	71.4	18.1	81.9	14.2	85.8



【2020年～の推移】



7. 最も優先すべき経営上の課題

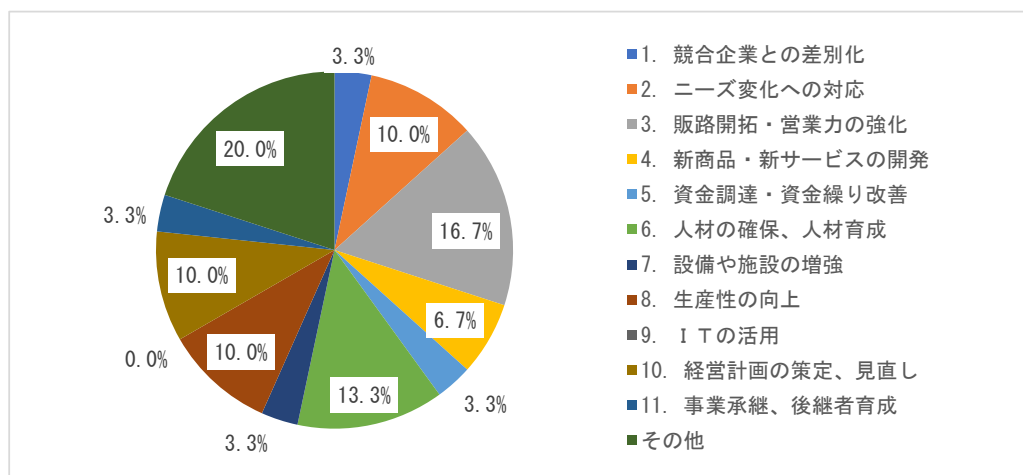
今期に最も優先すべき経営上の課題は、「販路開拓・営業力の強化」が16.7%と最も多かった。次いで、「人材の確保、人材育成」が13.3%と続く。

「販路開拓・営業力の強化」は前回より増加しており、売上高D Iが悪化していることを考え合わせると、売上高が低下し販路開拓によって売上回復を模索している状況がうかがえる。

「その他」でもっとも多かったのは「特にない (16.7%)」との回答だった。事業所内の問題意識が薄くなっていることが懸念され、外部からの意見が必要になっていることが考えられる。

図表15. 経営上の課題

【今期調査結果】



【2020年～の推移】

